日本のサイバーセキュリティを「連携」「学び」「創造」

Japan Network Security Association

JNSAの紹介

JNSA

https://www.jnsa.org/

2026年7月

事務局長　下村正洋

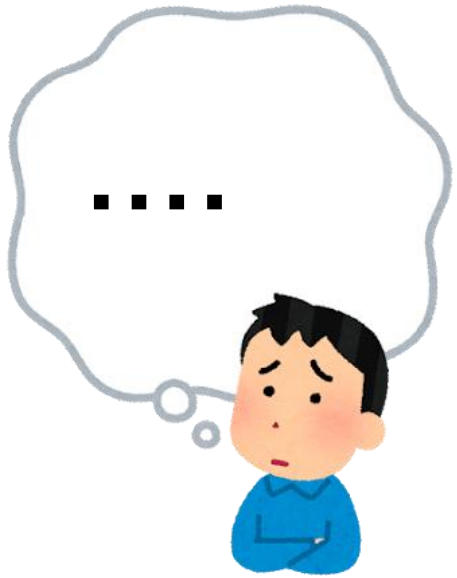
JNSAは何故できたのか？

（設立の頃のお話を・・・コンセプトは変わっていないようですから）

設立頃の風景（1995年～2000年頃）

- インターネット世界の出来事
  - 阪神淡路大震災（ネットの威力を見せた－安否確認）
  - 商用インターネットプロバイダ急増（料金の低下）
  - Windows95＆IE発売開始、JAVA登場
  - ビジネス（Yahoo、amazon、cnn.com、asahi.com）
  - JPCERT/CC、JPNICなどの設立
- 「インターネットが描くバラ色の未来」（長閑だった）
  - ホームページを作って、情報発信、売り上げアップ！
  - プロバイダーは儲かるぞ！
  - いろいろなもの？が見えるぞ！
  - なんかいっぱいビジネスがありそう！

・・・・でも、何か不都合がぽつぽつ・・・



設立頃の風景（1995年～2000年頃）

- セキュリティインシデント
  - ウイルス
    - 電子メール系（Melissa、LOVELETTER）
    - セキュリティホール系（CodeRed、MSBlaster）
  - 漏洩／侵入
    - 京都宇治市情報漏洩
    - 中央省庁Web改ざん

- セキュリティ施策
  - 各種対策基準の公開
    - 「コンピュータウイルス対策基準」「情報システム安全対策基準」（1995）
    - 「コンピュータ不正アクセス対策基準」（1996）
  - プライバシーマーク制度開始（1998）
  - ISMS制度開始（2001）
  - 政府関連
    - 通産省、総務省にセキュリティ対策室が設立
    - 内閣官房に情報セキュリティ対策推進室(現：国家サイバー統括室の前身の前身)が設置（2000.2）

設立へ（素人が作っちまった）

- さあ、始めよう・・1999年8月盆休み
  - 最初に考えたことは協会の名前
    - 「日本ネットワークセキュリティ協会」
      - どうもありそうなので通産省の知り合いに聞いてみた
      - ＞＞そこで・・・・呼ばれた！
        - » 初めて訪れる霞が関・・セキュリティ無し、何処でも入り放題
        - » 情報セキュリティ対策室メンバーずらり＞＞何すんの？
        - » バックアップします！！
  - 知り合いに相談
    - こんなことしたいねん。
      - ネットマークス、マイクロソフト、シスコシステムズ、富士ソフト
      - あっという間に仲間を連れてきた＞＞約20社>>風が吹いていただけ
    - 準備会発足（10月ごろ）
      - 毎月ミーティング＋飲み会
    - 石田晴久先生に会長お願い、山口英先生から圧力団体になれ！
- 2000年4月設立
  - 設立時会員52社
  - 予算1980万円、入会金無し、年会費24万円（なんで・・・）
  - 昨年度（2025年度）会費収入約6700万円、事業収入約7900万円、総額1.46億円

設立趣意書

ネットワーク・セキュリティは、今後、社会インフラとしてインターネットを中心に情報ネットワーク社会が形成されていく中で、必要不可欠のものになって行こうとしています。

このような中で、セキュリティとは、「何か」、「誰が」、「どこまで」、「責任」をもつのか、その責任の保証範囲など、社会のコンセンサスが取れていないのが現状であり、それ以前にネットワーク・セキュリティとは、一体、何かということにおいても、様々な認識があります。

例えば、インターネットを装備したマンションを造ったときに販売者及びサービス・プロバイダは、どこまでプライバシを保つのか、また、基本的にインターネット・サービス・プロバイダ及び通信事業者の中で、どのようにして、セキュリティが守られているのか、否、守られなければならないのか。海外製品が主流の中で我が国として、セキュリティ・システムは、如何に考えなければならないかなど、問題が山積している状態であり、これらを統合的に検討する場がないのが現状です。

このような状況を鑑み、現在、ネットワーク・セキュリティ製品を提供しているベンダー、システムインテグレータ、インターネットプロバイダーなどネットワークセキュリティに携わる組織が結集して、ネットワーク・セキュリティの必要性を社会にアピールし、かつ、諸問題を解決していく場として、本協会の設立を行います。

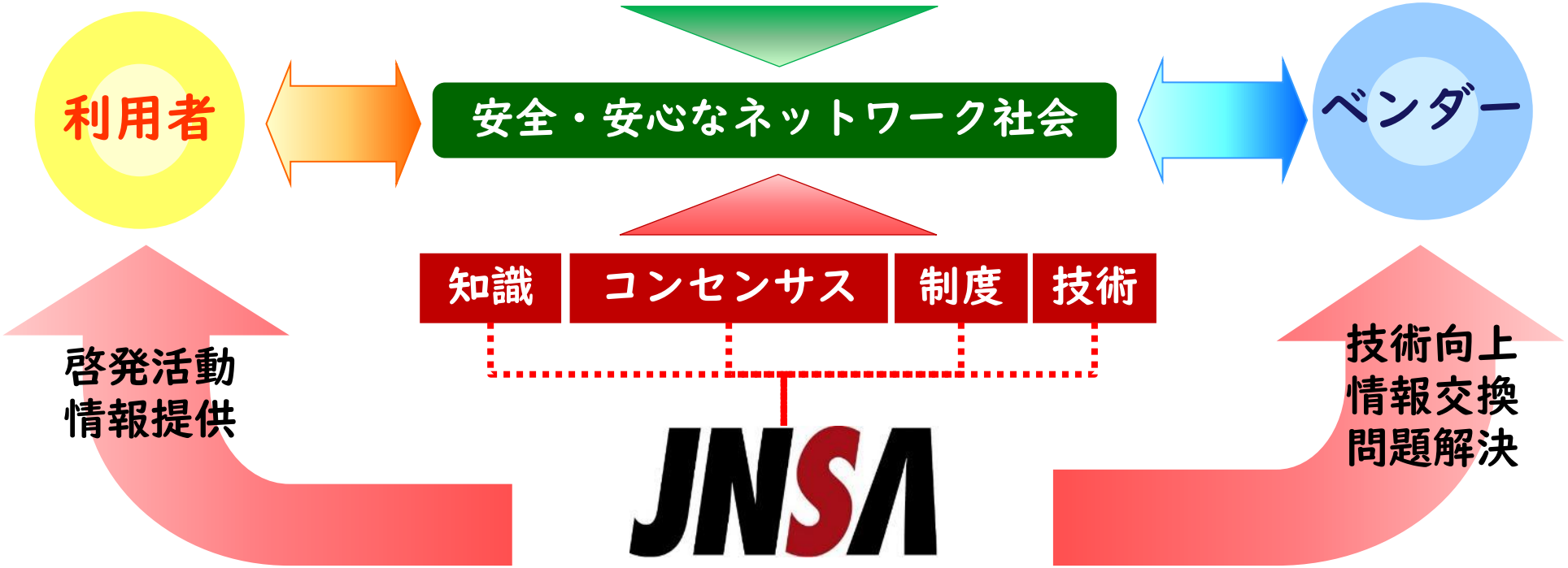
2000年4月13日　　事務局長　下村　正洋

JNSAのコンセプトは何？

ネットワークの急速な普及

インターネットの拡大（誰でも、どこでも）
利用者が一般人まで（初心者からプロまで）
すべてがネットワーク（社内データ、機密情報）など

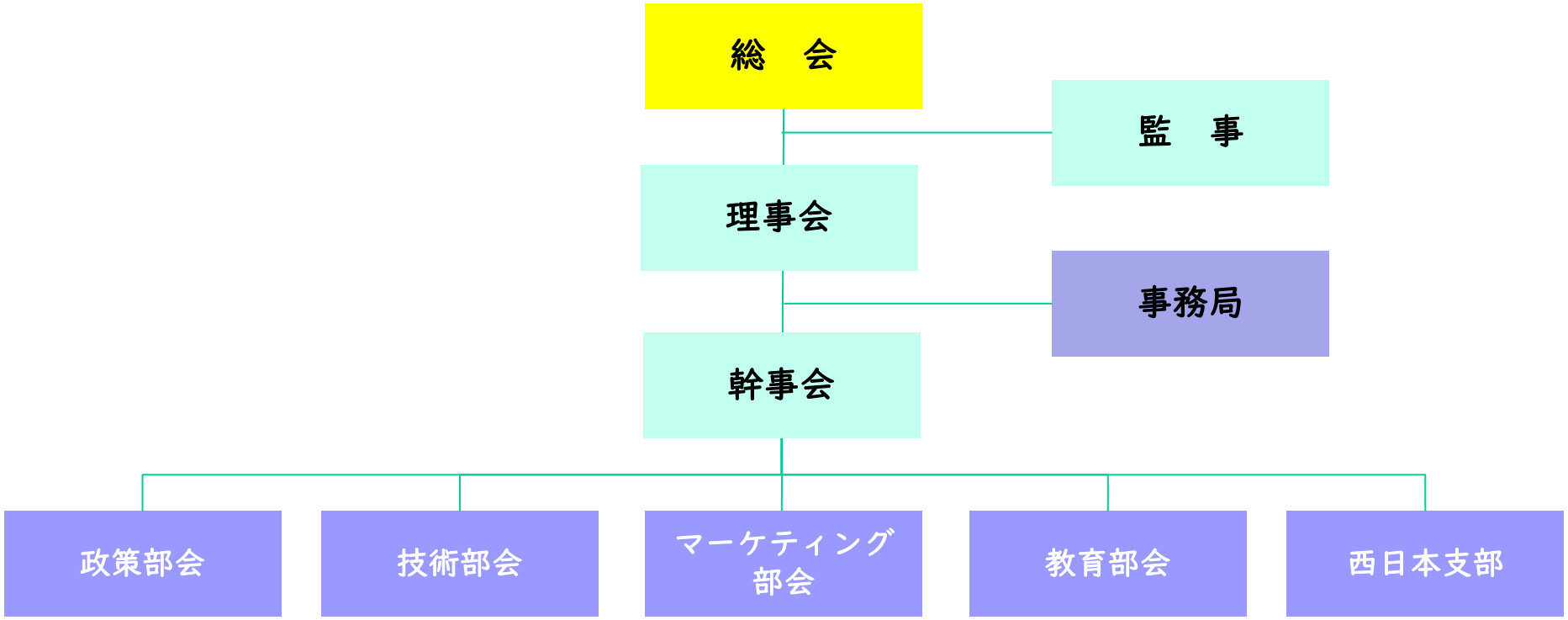
設立時の説明図
これは現在も使用中



JNSAの運営の肝は何？

- セキュリティ屋は孤独！＞＞＞集まれ＞＞愚痴を言おう＞＞
  そして何ができるか（すべきか）を考えよう
- でも、会費は企業から＞＞会社のジャケットは片肌脱いで
- 会社でできないことをやろう
- 自分の会社だけの利益は考えない＞＞風が吹けば桶屋で
- 失敗を恐れない。＞＞メンバーは失敗を追求しない
- JNSAを大きくすることは目標ではない
  ＞＞いずれ必要なくなることがいいなぁ
  ＞＞でも・・・

設立当初の組織



2000年～2005年のワーキンググループ（1）

■ 政策部会

1. セキュリティベンダーとしての管理基準策定WG
2. セキュリティ被害調査WG（2021年終了）
3. 個人情報保護ガイドライン作成WG
4. セキュリティ監査WG
5. マーケットリサーチWG
6. プライバシー保護実装研究WG
7. セキュリティ会計ガイドライン検討WG
8. セキュリティ市場調査WG（継続中）
9. セキュア・システム開発ガイドラインWG
10. スパイウェア対策啓発WG

■ 技術部会

1. セキュリティポリシーWG
2. セキュリティ評価WG
3. 相互接続WG
4. 技術研究WG
5. 技術用語WG
6. 不正アクセス調査WG
7. PKI研究WG
8. ダイナミックディフェンスWG
9. IDS研究WG
10. 情報セキュリティ標準調査WG
11. ST（セキュリティターゲット）作成WG
12. CA相互接続実験（Challenge PKI)
13. コンテントセキュリティWG
14. IRT調査研究WG
15. インターネットVPN WG
16. 不正プログラム調査WG
17. PKI相互運用技術WG-Challenge PKI-（継続中）
18. LANセキュリティWG
19. ハニーポットWG
20. データストレージ＆セキュリティWG
21. 暗号使用ポリシーテンプレート作成WG
22. 電子署名検討WG
23. セキュアOSとその活用方法研究WG

2000年～2005年のワーキンググループ（2）

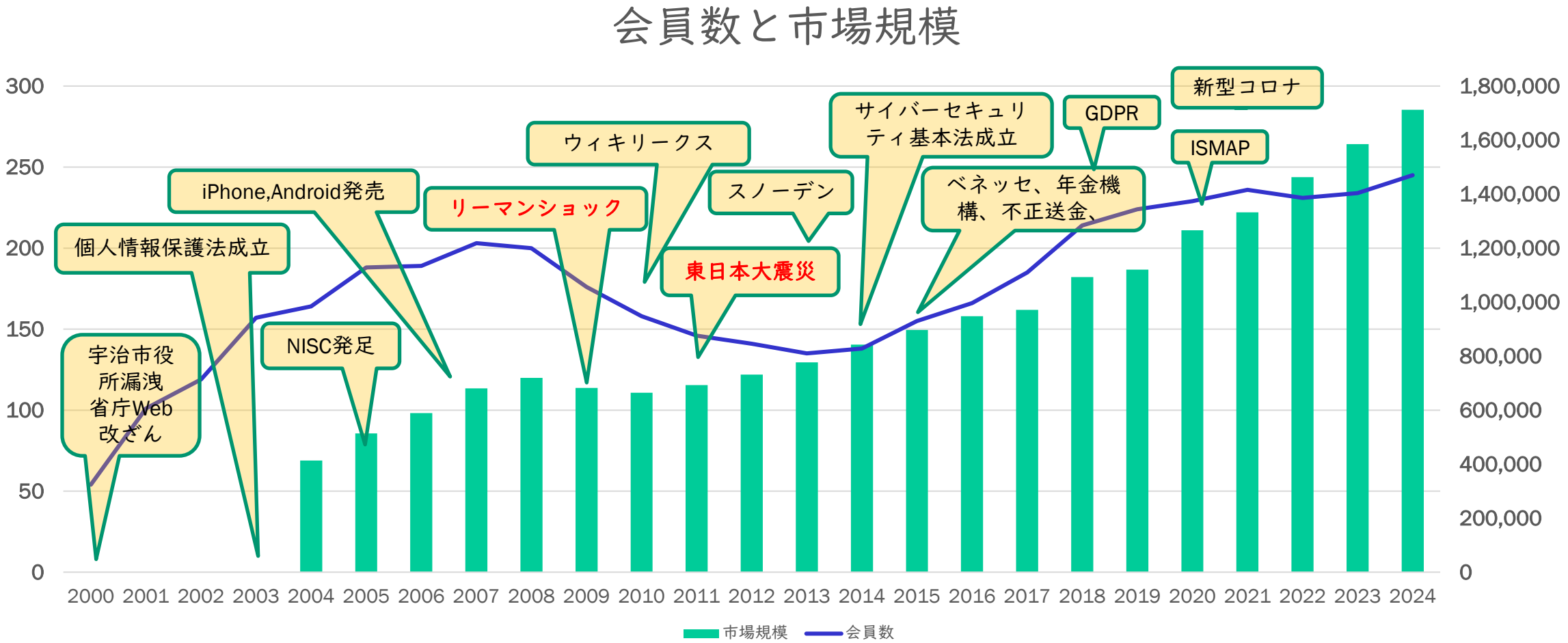
24.IPv6実証実験WG
25.S/MIME検討WG
26.Ｗｅｂセキュリティ調査・検証WG
27.脆弱性定量化に向けての検討ＷＧ
28.暗号モジュール評価基準WG
29.WEBアプリケーションセキュリティWG

■ マーケティング部会
1. セキュリティ啓発CD-ROM作成WG
2. セキュリティ啓発WG（インターネット安全教室）
3. セキュリティスタジアム企画運営WG

■ 教育部会
1. スキルマップ作成WG（SecBokの前身）
2. ITSS実証実験評価 WG
3. CISSP行政情報セキュリティCBK-WG（旧ISSJP-WG）
4. 情報セキュリティ推奨教育検討WG

■ 西日本支部
1. 中小企業向け個人情報保護対策WG
2. セミナー運営WG

会員数と市場の推移

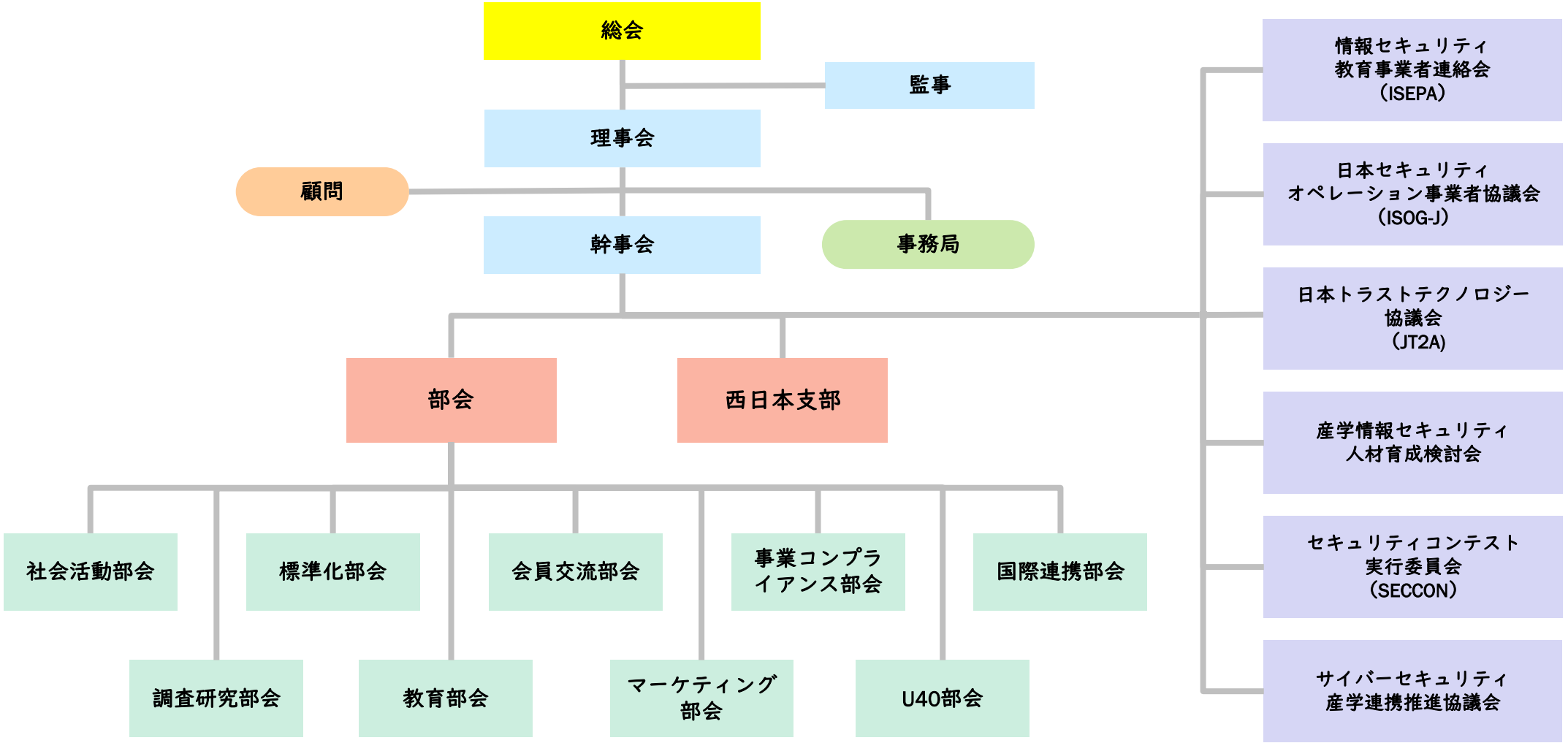


そして、今・・・・

概要

- 名称　　特定非営利活動法人 日本ネットワークセキュリティ協会
  JNSA（Japan Network Security Association）
- 設　立　　2000年4月（任意団体として発足、NPO法人化は2001年)
- 会員数　　2026年7月10日現在
  313組織（正会員279社、特別会員32組織）
- 住所　　本部　　東京都港区新橋
  西日本支部　大阪府大阪市北区角田町（株式会社ソリトンシステムズ 大阪営業所内）
- 役員
  - 会長　　江崎 浩（東京大学大学院情報理工学系研究科 教授）
  - 副会長　　中尾 康二（国立研究開発法人情報通信研究機構）
  - 高橋 正和（株式会社Preferred Networks）
  - 事務局長　　下村 正洋

組織



活動全体図

※WG：ワーキンググループを表す。

・部会/委員会数：16　・WG数：44　・部会WG（部会WGのみ）メンバー登録延べ数：1817名　（2026.7現在）

現在のワーキンググループ（1）

- 社会活動部会
  1. CISO支援WG
  2. JNSA CERC
  3. 中小企業支援施策WG
  4. 医療IT WG
- 調査研究部会
  1. セキュリティ市場調査WG
  2. 組織で働く人間が引き起こす不正・事故対応WG
  3. インシデント被害調査WG
  4. データベースセキュリティWG
  5. AIセキュリティWG
  6. X.1060マップ活用WG
  7. IoTセキュリティWG
  8. 脅威を持続的に研究するWG
  9. OTセキュリティWG
- 標準化部会
  1. デジタルアイデンティティWG
  2. 電子署名WG
  3. 日本ISMSユーザグループ
  4. PKI/PQC運用技術WG
- 教育部会
  1. ゲーム教育WG
  2. 情報セキュリティ教育実証WG
  3. セキュ女
  4. 教育部会産学連携プロジェクト
- 会員交流部会
  1. セキュリティ理解度チェックWG
  2. JNSAソリューションガイド活用WG
  3. 国産セキュリティ産業振興WG
- マーケティング部会
- 事業コンプライアンス部会

現在のワーキンググループ（2）

- U40部会
  1. For Rookies WG
  2. 勉強会企画検討WG
  3. Inside IT WG
- 国際連携部会
- 西日本支部
  1. 今すぐ実践できる工場セキュリティ対策のポイント検討WG
- 産学情報セキュリティ人材育成検討会
- セキュリティコンテスト実行委員会（SECCON）
- サイバーセキュリティ産学連携推進協議会

- 情報セキュリティ教育事業者連絡会（ISEPA）
  1. 相互認証WG
  2. 広報WG
  3. JTAG WG

- 日本セキュリティオペレーション事業者協議会（ISOG-J）
  1. セキュリティオペレーションガイドラインWG
  2. セキュリティオペレーション技術WG
  3. セキュリティオペレーション認知向上・普及啓発WG
  4. セキュリティオペレーション連携WG
  5. 「ログ分析技術レポート」レビューチーム
  6. ISOG-Jセキュリティエンジニア実態調査アンケート2025チーム
  7. 「現実的な粒度でATT&CKを補う新フレームワーク」を検討するチーム
  8. 脆弱性管理推進チーム
- 日本トラストテクノロジー協議会(JT2A)
  1. ゲーム教育WG
  2. 情報セキュリティ教育実証WG
  3. セキュ女
  4. 教育部会産学連携プロジェク

ここからは、JNSA WEBサイトをご覧ください。
JNSAの活動を見ると今のサイバーセキュリティの
課題が見えてきます。
JNSAサイトに行って、ポチ、ポチ…してください。
この資料は後日公開します。

社会活動部会

社会活動部会

部会長：唐沢 勇輔 氏（Japan Digital Design 株式会社）

JNSAがサイバーセキュリティ界における、社会問題の解決者として、今まで以上に社会に貢献していくために、従来から行ってきた活動の見直しを行うとともに、政策提言活動を行っていく。
具体的には、適正なセキュリティ事業遂行の促進、業界団体としての政策提言のとりまとめ、政府と協力した政策の促進、メディアや市場の力を活用した普及啓発活動、外部組織支援、国際・他団体連携などを行う。

- 政府機関等他組織との連携
  - 定例意見交換会の実施
    NCO、総務省、経済産業省、IPA等
- 対外発信活動
  - プレス向け記者懇談会、時事ワークショップ
- 会員向け勉強会企画実施
  - 法律、最新動向、政策等
- 情報発信活動
  - JNSAメールマガジン、しんだん等

＝会員限定勉強会＝
テーマ：「NCOの推進する脅威ハンティング普及への取り組み」
講演者：NCO 雲田参事官
開催日時：2026年5月26日（火）
14時00分～16時00分
開催方法：ハイブリッド開催

社会活動部会

JNSAメールマガジン

＜購読者＞
・JNSA会員・非会員、登録者数約4200
＜配信内容＞
・連載リレーコラム
・部会/ワーキンググループからのお知らせ
・セミナー/イベント情報（不定期）
・事務局からの連絡、お知らせ など
＜アーカイブ＞
https://www.jnsa.org/aboutus/ml.html

＜最近の配信内容＞
第340号：改正個人情報保護法案の「紛糾」を解剖する（2026.6.12配信）
第339号：サイバーセキュリティ教育をゲームで学ぶ！「協力型インシデント報告ボードゲーム（CoRepo）」（2026.5.29配信）
第338号：サイバーセキュリティシンポジウム道後(SEC道後)2026に参加してきました～温泉シンポジウムは「人のつながり」を感じるイベント～（2026.5.15配信）
第337号：AIを利用したシステムに対する脅威モデリング手法の評価について（2026.5.1配信）
第336号：SECCONでつながる技術者のネットワーク（2026.4.17配信）
第335号：サイバーセキュリティの仕事と、資格取得の有益性について（2026.4.3配信）第334号：【イベントレポート】JNSA25周年記念セミナー　――AI時代のサイバー空間と「国産」の次の一手（2026.3.20配信後公開）
第333号：ブラウザ拡張機能の悪性化とその対応（2026.3.6配信）

その他

＜しんだん＞
・社会活動部会意見の投稿コーナ

＜記者ゼミ＞
・日本記者クラブと提携して記者向けの勉強会を定期開催（年３～４回）
2025/9/17（水）　「サイバーをどう記事に？～若手記者の現場から～」
「模擬記者会見で学ぶ～サイバー攻撃の取材術～」
2026/1/19（月）　「CISOに聞きにくい10のコト～企業目線のサイバー報道を考える～」
2026/6/10（水）　「サイバーセキュリティの現場で起きていること」

社会活動部会

ＣＩＳＯ支援WG　　リーダー：高橋 正和氏（株式会社Preferred Networks）

セキュリティ対策は、規準・規定といった監査的な視点と、セキュリティソリューションを中心に考えられてきたが、企業セキュリティの実務においては、セキュリティを担当するCISOの重要性が認識されるようになっている。一方で、セキュリティ専門家に対しての知見は蓄積されているが、企業経営の一員としてのセキュリティ責任者という知見は、ほとんど蓄積されていない。CISOが必要とする知見にフォーカスし、これを支援するための活動を行う。

＜活動成果＞
・2021年1月20日、「CISOハンドブック―業務執行のための情報セキュリティ実践ガイド」（著作 JNSA CISO支援WG）を出版。
・2023年1月21日、「CISOのための情報セキュリティ戦略」（著作 高橋正和、協力 JNSA CISO支援WG）
・2024年6月3日、「CISO-PRACTSIEワークショップ用マテリアルVer2」を公開

＜活動予定＞
・CISO-PRACTSIE(ワークショップ）の開催
・関連マテリアル（教材）の公開
・CISO BRIDGESの開催(経営者やCISOへの経験や実務課題に対するヒアリング)

JNSA CERC　　リーダー：高橋 正和氏（株式会社Preferred Networks）

緊急時の情報交換のプラットフォームとして活動。

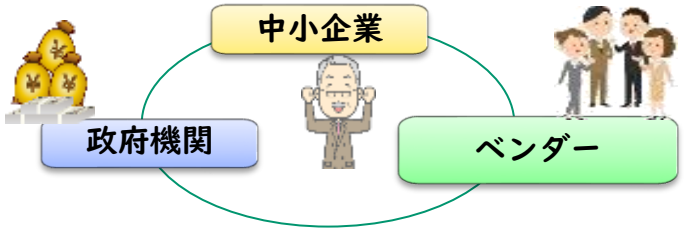
社会活動部会

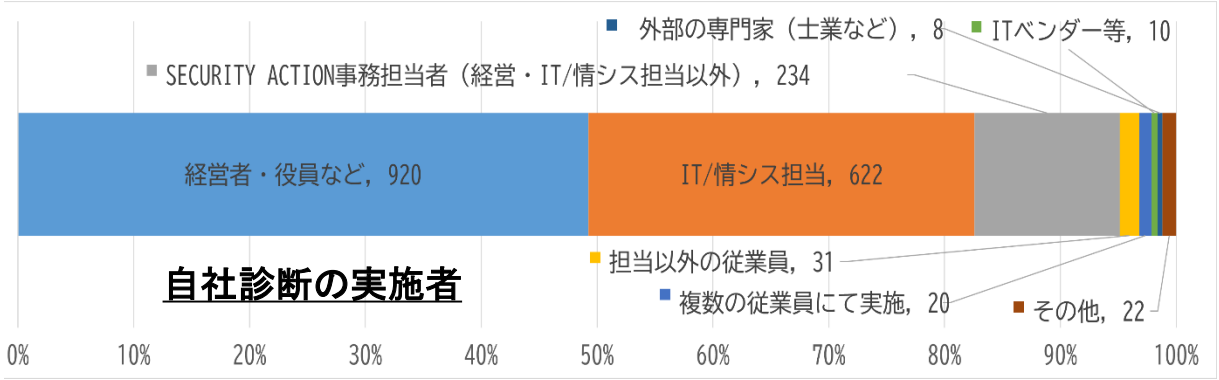
中小企業支援施策WG　　**リーダー：古川 英規氏（株式会社RSコネクト）**

中小企業の情報セキュリティ対策導入を促進する官民による支援施策の検討と、その実践中小企業の情報セキュリティ市場の拡大を捉えたJNSA会員のソリューション展開への寄与

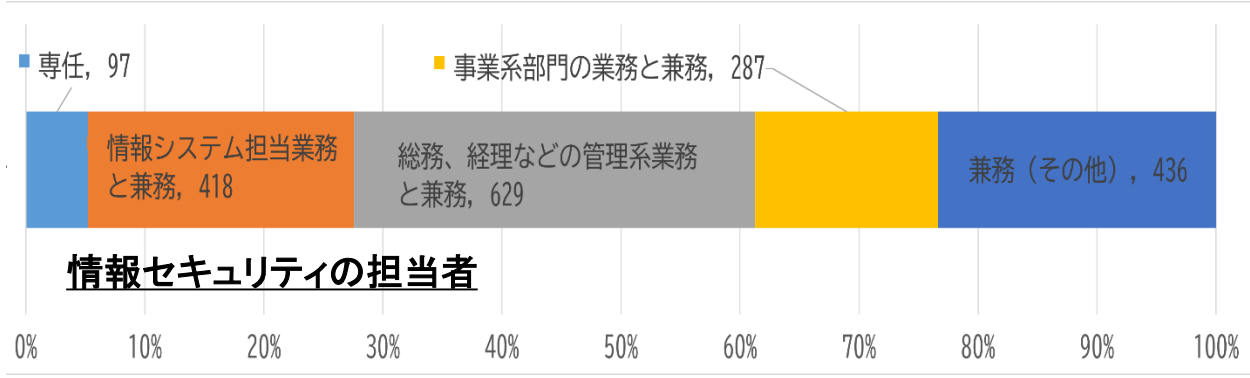
＜活動と予定成果物＞

・中小企業向けセキュリティガイドラインとベストプラクティス
・JNSAソリューションガイドコンテンツ
・セキュリティ補助金施策提言
・中小機構E-SODAN向けセキュリティQ&Aコンテンツ
・SECURITY ACTION二つ星事業者実態調査（協力IPA様）2025年8月26日公開
　実施方法：アンケート調査、ヒヤリング調査
　対象数：33,573件　回答数：1,867件（5.5%）実施期間：2024年10月～2025年3月





自社診断の実施者



情報セキュリティの担当者

社会活動部会

医療IT WG（2025年4月設立）　　**リーダー：新 善文氏（アラクサラネットワークス株式会社）**

医療システム(電子カルテ、ネットワーク、医療機器などを含む)と医療機器のセキュリティや安全性の確保のために、機器、システム、運用といった観点からどのような技術や体制、運用をするとよいかを整理し、その実証実験などを行いながら、実システム・実運用への適用を目指す。

＜主な活動＞

- 定期的な会議の開催
- 医療情報関係の各種のセキュリティや運用ガイドラインへの意見とりまとめ
- セキュリティや運用方法の啓蒙・普及活動
- 医療関連組織との意見交換
- 関係省庁（厚生労働省、経済産業省等）との意見交換

＜協力・連携団体＞（医療関連団体：調整中）

- 医療情報学会
- 医療サイバーセキュリティ協議会
- CISSMED
- 京都大学医学部付属病院 等

社会活動部会

みんなの「サイバーセキュリティコミック」実行委員会　実行委員長：本川 祐治氏（株式会社日立システムズ）

セキュリティ知識の普及とネットリテラシーの向上、ネットを守るハッカーへの興味とイメージアップ、セキュリティ人材育成を促進することを目的として「サイバーセキュリティ」をテーマとしたコミックを2020年度～2023年度に合計30話をJNSAのX（旧Twitter）で広く発信する。大島悠先生に原作を依頼、花園みずき先生に作画を依頼し、コミック発信は（株）角川アスキー総合研究所、(株)KADOKAWAに協力いただく 。

https://www.jnsa.org/comic/

シーズン実績：

2022年度　8話　インプレッション：約1000万、エンゲージメント：約180万(18.6%)

2023年度　6話　インプレッション：約705万、エンゲージメント：約60万(8.5%)

2023年度で活動終了
コンテンツは公開中

調査研究部会

調査研究部会

部会長：前田 典彦 氏（株式会社ＦＦＲＩセキュリティ）

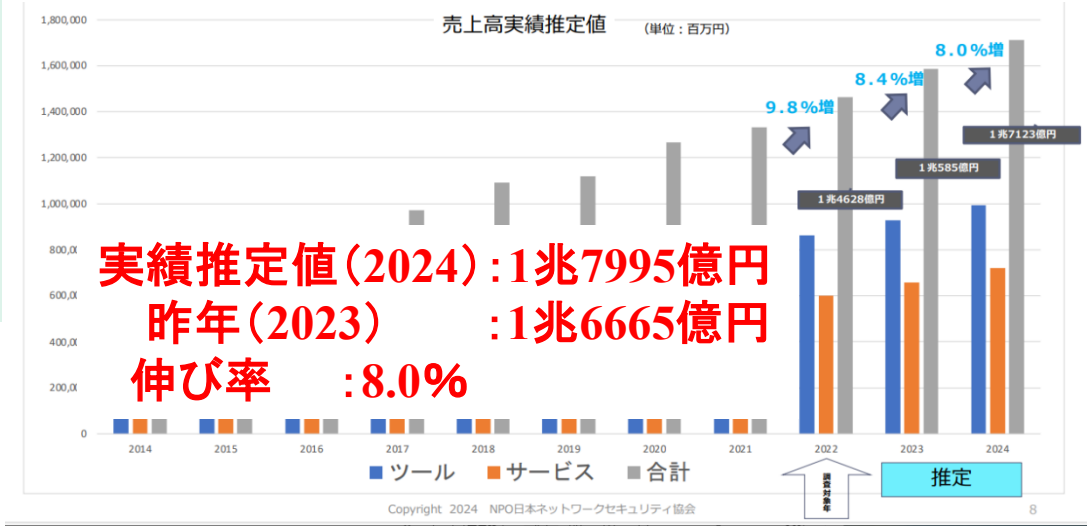
情報セキュリティにおける各種の調査および研究活動を行う。
セキュリティ被害、情報セキュリティ市場などの統計分析事業、および、重要度や緊急度の高いテーマに関する脅威分析、対策研究を推進する。適切な時期、形式を用いて適宜情報公開を行い、調査研究における成果を広く社会に還元する。新規性や緊急性の高いテーマの検討が必要となる場合においては、勉強会、BoFなどを随時行うなどして、柔軟かつ迅速な対応を行う。

セキュリティ市場調査ＷＧ

リーダー：募集中

国内で情報セキュリティに関するツール、サービス等の提供を事業として行っている事業者を対象として、推定市場規模データを算出し報告書として公開する。また、近年のセキュリティ市場拡大の伴う、市場調査の調査内容、セキュリティ区分の見直しを実施。

2024年度 「国内情報セキュリティ市場調査報告書」を公開（2025.7.7）
https://www.jnsa.org/result/surv_mrk/2025/index.html



調査研究部会

インシデント被害調査WG

リーダー： 神山 太朗 氏（あいおいニッセイ同和損害保険株式会社）
サブリーダー：西浦 真一 氏（キヤノンITソリューションズ株式会社）

インシデントの被害組織に発生しうる、各種事故対応、アウトソーシング先、被害額等を調査・集計し、成果物としてまとめる。

＜活動予定＞
- 月1回程度の頻度でWGミーティング
- 2025年度版の成果物のリリース、およびそれに伴う発表
- 翌年度版成果物作成に向けた調査
- インシデント損害額調査レポート（英語翻訳版）の作成

＜活動成果＞
「インシデント損害額調査レポート 別紙 2025年版（2017.1～2024.6）」2025年7月23日公開
「インシデント損害額調査レポートから考えるサイバー攻撃の被害額」2024年7月18日公開
「インシデント損害額調査レポート 第2版」2024年2月9日公開
「サイバー攻撃被害組織アンケート調査（速報版）」2023年10月23日公開
「ランサムウェアおよびエモテットによる全国の被害組織マップ」 2023年10月23日
「インシデント損害額調査レポート第1版」2021年8月18日

＜予定成果物＞
- 2021年、2024年にリリースしたインシデント損害額調査レポート（本紙）の補足となる調査をまとめたレポート

調査研究部会

組織で働く人間が引き起こす不正・事故対応WG　　リーダー：甘利 康文 氏（セコム株式会社）

(1)人の意識や組織文化、(2)組織の行動が影響を受ける社会文化や規範、(3)不正を防ぐシステム、の３方向から「組織で働く人間が引き起こす不正・事故」に対する考察を深め、ベストプラクティスの紹介、提案、啓発を行うことを目的とする。

＜活動予定＞
新規ヒアリング先を開拓し、調査内容をJNSA会報誌やWebサイトを活用し積極的に啓発活動を展開する。
＜最近の発表＞　インタビュー連載（https://www.jnsa.org/result/soshiki/）
第17回　「NTTデータグループにおける人材戦略と取り組みに関するインタビュー」（2025年12月23日）
第16回　「日立製作所研究開発グループにおける人材戦略と取り組みに関するインタビュー」（2025年6月17日）
特別編 第12回　「経済産業省における人材戦略と取り組みに関するインタビュー」（2024年12月19日）
特別編 第11回　「東京消防庁 人事関連部門へのインタビュー2回目」（2024年6月4日）
特別編 第10回　「東京消防庁 人事関連部門へのインタビュー１回目」（2024年4月11日）
特別編 第9回　「財務省 における「活きいきと働くための施策」に関するインタビュー」（2024年3月26日）
特別編 第8回　「法務省 公安調査庁への「活きいきと働くための施策」に関するインタビュー」（2023年11月10日）
特別編 第7回　「防災科学技術研究所 安藤理事への「活きいきと働くための施策」に関するインタビュー」（2023年3月30日）
特別編 第6回　「北海道大学　吉原教授に聞く「博士のキャリア」に関するインタビュー」（2022年11月2日）
第15回　日本電気株式会社（2022年7月12日）
特別編 第5回　「JAXAはやぶさ２プロジェクト」プロジェクトマネージャー|宇宙航空研究開発機構(JAXA)教授 兼　東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻 津田 雄一教授への【はたらく人のモチベーション維持】に関するインタビュー（2022年4月1日）

調査研究部会

IoTセキュリティWG　　リーダー：松岡 正人氏（ブラック・ダック・ソフトウェア合同会社）

IoTに限らず、新しい技術に関連するセキュリティ上の課題を整理・共有し、外部の組織などと連携しながら適切なリスクや脅威についての理解を広める支援をする。IoTセキュリティに関連する調査研究を継続する。

＜年間活動予定＞
・IoT に関連する新たな規格や規制についての情報収集（オンライン）
・IoT に関連する勉強会・セミナー（オフライン）の開催
　・2023/8/25 「日本におけるソフトウェアサプライチェーンとSBOMのこれから」
　https://www.jnsa.org/seminar/2023/iot/index.html

脅威を持続的に研究するWG　　リーダー：甲斐根 功氏（株式会社日立システムズ）

サイバーセキュリティを取巻く環境の変化に応じ顧客ニーズや課題を捉え直し、国内外における新たなビジネスアプローチやマーケットの構図の変化を調査し、情報発信する。

・定期的な勉強会開催を実施。
　最近開催のテーマ：
　　1．BCP体験型机上演習から浮かび上がってきた諸課題
　　2．経済安保、サイバー安保関連最新アップデート

調査研究部会

データベースセキュリティWG（2024年4月発足）　　リーダー：大澤 清吾 氏（日本オラクル株式会社）

情報セキュリティの3要素である「可用性（Availability）」、「機密性（Confidentiality）」、「完全性（Integrity）」に求められる要素技術を中心としたデータベースのスタンダードな技術仕様、実践的な実装手法を検討するとともに「内部不正」、「クラウドセキュリティ」、「ランサムウェア」などに求められるデータの取扱い等に関する技術交流や調査研究を行う。

※2024年4月に任意団体データベース・セキュリティ・コンソーシアム（DBSC)から移行

＜年間活動予定＞
・データ及びデータベース管理に関するアンケート調査
・毎月１回程度のWGメンバー会合
・年3回程度の公開シンポジウムや勉強会の開催

＜成果物＞2025年7月10日公開
・チーム1の報告書「セキュリティ事故の原因と対策：過去の教訓を現代に活かす」
・チーム2の報告書「サイバー戦国絵巻 ～ 技術と社会の攻防 ～」
・チーム3の報告書「データを守る！クラウドDBセキュリティ要件対応ガイド AWS・OCI・Azure・Google Cloudの活用術」

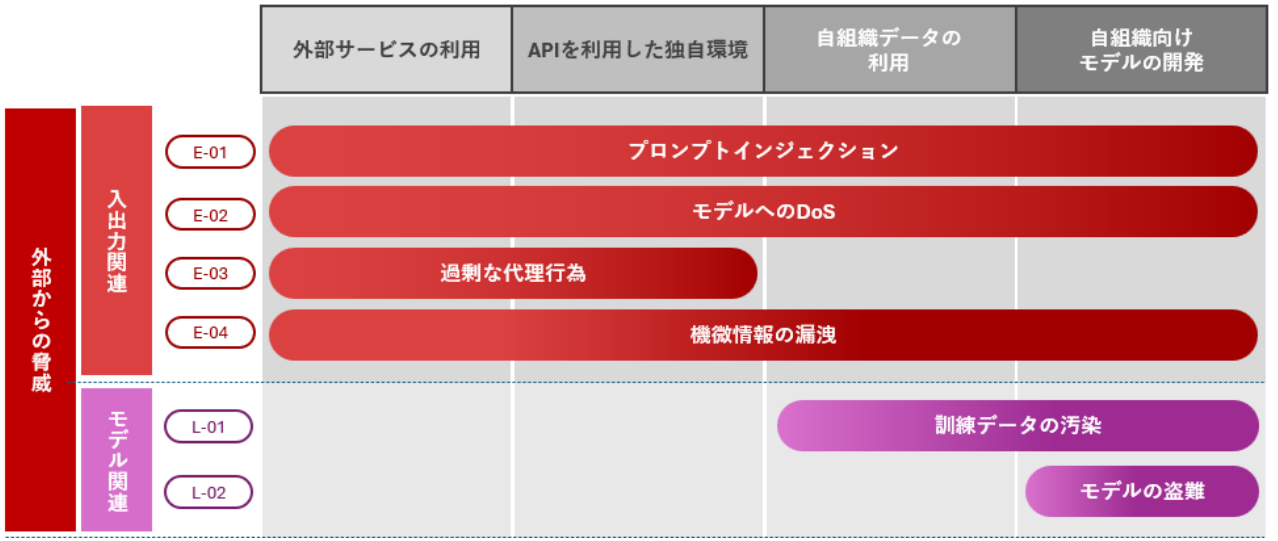
調査研究部会

AIセキュリティWG　　**リーダー：服部祐一氏（株式会社セキュアサイクル）**

近年のAIの目覚ましい進歩により、様々な分野でAIが活用されている。セキュリティ分野でもAIの利用が進んでおり、今後さらに広がると予想される。社会におけるAIの利用におけるセキュリティおよびセキュリティ分野でのAIの活用について調査研究を行う

＜年間活動予定＞
・AIセキュリティに関する勉強会
・生成AIのセキュリティに関する調査

＜成果物＞
・「生成AIを利用する上でのセキュリティ成熟度モデル」を公開（2025.3.26）
・「AIを利用したシステムに対する脅威モデリング手法の評価」を公開（2026.3.30）



調査研究部会

OTセキュリティWG（2024年8月発足）　　リーダー：佐々木 弘志 氏（フォーティネットジャパン合同会社）
サブリーダ：藤原 健太（フォーティネットジャパン合同会社）

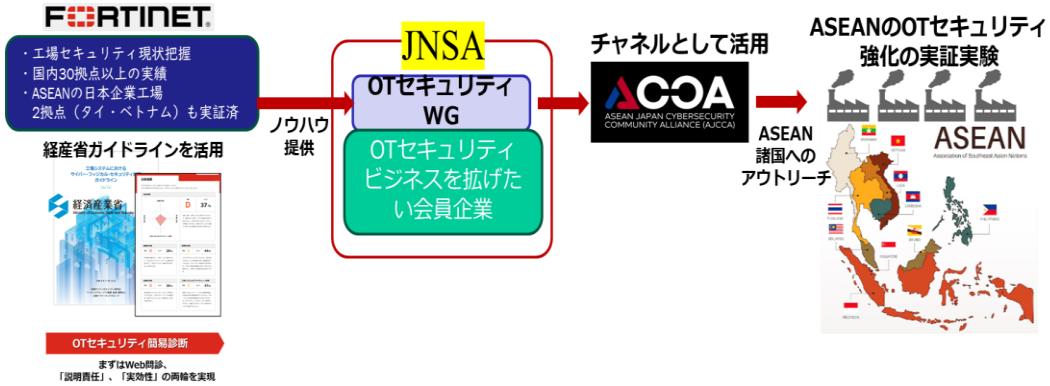
OTセキュリティ文化醸成のための調査・研究・アワード制度の創設を検討する。 工場等OTセキュリティ関連団体との連携・情報共有を図るとともに、国際連携部会との情報の共有を実施し、国内のみならずASEAN各国のOTセキュリティ文化の振興のための活動を行う。

＜年間活動予定＞

- ユーザー・メーカーの垣根を超えたOTセキュリティ活動の啓発、人材育成、調査・研究、アワード制度
- Green University of Tokyo Project（GUTP）とEdgecrossコンソーシアム（ECC）工場セキュリティガイドライン普及啓発イベント協賛、経済産業省/工場セキュリティガイドラインを軸とした各種ガイドラインの関係整理、関連団体との関係づくり、取組み内容や課題などの情報共有・意見交換
- 国際連携部会と協力し、日系ASEAN企業に対するOTセキュリティ支援のための活動を実施する。JNSAの会員/非会員問わず工場セキュリティ活動に関する情報を収集した情報発信を行う 。

＜予定成果物＞

・OTセキュリティアワード表彰
・経済産業省/工場セキュリティガイドラインを軸とした各種ガイドラインのマッピング
・ASEAN企業支援PoC報告書（非公開）



調査研究部会

X.1060マップ活用WG（2025年6月設立）　リーダー：小坂 和哉（株式会社NTTデータ）
サブリーダー：宇野 文康（株式会社 日立システムズ）
サブリーダー：川田 孝紀（NTTセキュリティ・ジャパン株式会社）

ITU-T勧告 X.1060は、サイバーリスク対応のための組織のフレームワークを定義した国際勧告です。このX.1060は、ISOG-J WG6 の「セキュリティ対応組織の教科書」が元になっています。サイバーリスク対応のための組織を効率的に構築して効果的に運用するためには、セキュリティ製品やソリューション、サービスを適切な採用が欠かせません。X.1060マップ活用WG(仮称)では、X.1060に利用可能な国内のセキュリティ企業の製品・ソリューション・サービスなど調査して、マッピングを行い、ビジネス活性化や海外展開の促進を目指す。

＜年間活動予定＞　※毎月１回程度の定例会合の実施状況によりオンラインのみ開催
　6月　キックオフ
　7月-9月　X.1060勉強会/X.1060マップ作製
　10月-12月　X.1060マップ作製/本ワーキングの中間成果を対外発表（予定）
　1月-3月　年度内成果物のブラッシュアップ
＜予定成果物＞
　国内セキュリティ企業の製品・ソリューション・サービスなどをX.1060マップにマッピングした成果を活用して、ビジネス活性化や海外展開の促進を目指します。
　・「X.1060サービスマップ」を公開（2026.3.18）

標準化部会

標準化部会

部会長：中尾 康二 氏（国立研究開発法人情報通信研究機構）
副部会長：小川 博久 氏(株式会社三菱総合研究所)

業種・業界・分野等の標準化・ガイドライン化などを推進する。
特に、JNSA目線のセキュリティベースラインの提供、情報セキュリティ対策ガイドラインの策定などを進める。また、国際標準/国際連携との親和性の高い案件については、国際標準への提案やコメント、国際連携案件も視野に入れて、議論を進める。。さらに、近年のデジタル化促進にともなる
技術要素についても積極的に取り上げ、標準化部会での技術共有や課題抽出を実施していく。

- ・JNSA標準化部会主催セミナー
  - 2025年10月23日
    「デジタルトラストの最新動向と展望」
    https://www.jnsa.org/seminar/std/2025/index.html
  - 2024年11月15日
    「IoTセキュリティ標準化の動向を知る」

「デジタルトラストの最新動向と展望」セミナー
日時：10月23日（木）13：00－17：30
場所：オンライン（Zoomウェビナー）
講演1：デジタルトラストの概念と動向
講演2：電子署名とトラスト
講演3：デジタルアイデンティティとトラスト
講演4：PKIとトラスト
パネル討論：デジタルトラストの課題及び標準化の展望

標準化部会

デジタルアイデンティティWG　　リーダー：貞弘 崇行 氏（伊藤忠テクノソリューションズ株式会社）

広くデジタルアイデンティティに関する様々な課題を検討し、デジタル社会の基礎となるIDの重要性の啓発やプライバシー関連の問題提起や標準化に向けた意見交換を行う。

＜最近の成果物＞https://www.jnsa.org/result/digitalidentity/index.html（アーカイブ）
- 「Software Design　今さら聞けないID管理」が発売されました。執筆協力（2025年11月）
- 【改定新版】特権ID管理ガイドライン　解説編／実践編（2024年5月）
- ニュージーランド政府による“Identification Management Standards”に関する考察（2023年5月）
  ==NIST SP800-63 "Digital Identity Guidelines"との比較結果等==
- 【改定新版】特権ID管理ガイドライン　解説編（2023年3月）
- 「Software Design　今さら聞けない認証・認可」が再編集されて別冊シリーズで発売（2023年3月）

＜年間活動予定＞
- 2025年6月-2026年3月：WG実施（原則月１回）　サブWGは適宜開催
- LT大会、アイデンティティ勉強会、その他講演、執筆活動は随時実施

＜予定成果物＞
- 「認可についての理解と整理 第２版」（仮）

メンバー紹介ページもあります。
https://www.jnsa.org/active/std_idm.html

標準化部会

電子署名WG

リーダー：宮崎 一哉氏（三菱電機株式会社）

電子署名関連技術の相互運用性確保のための調査・検討・標準仕様提案、電子署名保証レベルの検討、電子署名関連パブコメへの対応、電子署名普及啓発、及びISO/TC154の国内審議団体の運営等を行う。

＜セミナー＞
- 「認証＆署名の保証レベルセミナー」～信頼できるサービスの評価～（2026年6月17日）

＜成果物＞
- JIS X 14533-1:2025「長期署名プロファイルー第１部：ＣＡｄＥＳデジタル署名」
  JIS X 14533-2:2025「長期署名プロファイルー第２部：ＸＡｄＥＳデジタル署名」
  JIS X 14533-3:2025「長期署名プロファイルー第３部：ＰＡｄＥＳデジタル署名」公開（2025 年11 月14 日）
- 「署名保証ガイドライン第1.00 版」公開（2026 年4 月8 日）

＜年間活動予定＞
- 標準規格案等の検討及び標準規格化
- ISO/TC154国内審議団体としての運営
- 欧州電気通信標準化機構/電子署名基盤技術委員会（ETSI/ESI）との調整
- 電子署名保証レベルに関する検討及び報告書作成
- ISO/SC34及び一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）のリエゾン
- 標準化部会イベントやPKI Day等講演会の開催支援

＜予定成果物＞
- 電子署名保証レベルガイドライン
- 電子署名検証ツールの調査報告書
- 電子署名に関わる標準規格の制改定

標準化部会

日本ISMSユーザーグループ　　リーダー：魚脇 雅晴氏（NTTドコモビジネス株式会社）

ISMS認証取得企業（ユーザ）とISMSの専門家が連携し、意見交換・議論を進めることでISMSの構築・運用に関わるユーザ視点でのベストプラクティスを提供し、日本における健全かつ効果的なISMS普及・促進に貢献する活動を行う。

＜2025年度活動＞
- 「日本ISMSユーザグループ 情報セキュリティマネジメント・セミナー2025」（参加者652名）
  YouTube公開中　https://www.youtube.com/@JNSAseminar/playlists
- インプリメンテーション定例研究会（11回実施、参加者のべ320名）

＜活動予定＞
- インプリメンテーション研究会におけるISMSの構築や運用における課題検討（毎月）
- セキュリティ勉強会（ライトニング形式）
- 「日本ISMSユーザグループ 情報セキュリティマネジメント・セミナー2026」12月開催

＜予定成果物＞
- 「組織を取り巻く環境の変化（サイバー攻撃等）に対応したISMSの管理策の実装における問題点や課題について」をユーザ視点で検討＆整理

PKI・PQC運用技術WG　　リーダー：伊藤 忠彦氏（セコム株式会社）

セミナーなどを開催し、デジタル社会におけるPKI およびデジタルトラストの重要性をアピールしていくとともに、会員向けに勉強会なども開催する。

- セミナーイベント「耐量子計算機暗号とクリプトグラフィックアジリティ」
- IETF 参加報告会（WG 開催）

教育部会

教育部会

部会長：平山 敏弘 氏 （学校法人電子学園）

社会のニーズや時代の変化に適合したセキュリティ人材育成のため、必要とされる知識・技能等の検討を行い、実際に大学や専門学校等で評価実験を行う。また、情報セキュリティ教育のコンテンツとして、講義シラバスや講義資料およびSecBoK2023 年英語版の作成・公開を通じて、教育界・産業界への展開・使用を促進することで、情報セキュリティ人材の育成に貢献する。また、ASEAN を中心とした海外教育機関との連携によるセキュリティ人材育成への貢献を目指す。さらに、継続して講師データベースへの登録講師や講師予備軍の若手による講義・勉強会の開催等、教える場の提供を支援することにより、JNSA 教育部会メンバーのスキル向上を目指す。

＜SecBok海外利用事例＞
・SecBok（Security Body of Knowlege）英語版がインドネシア国立大学で利用
＜活動予定＞
・SecBoK2025更新版の普及促進。活用ガイドの作成
＜成果物＞
・SecBoK2025 （セキュリティ知識分野） 更新版公開（2026.1.26）
15の役割とスキルを整理

教育部会

ゲーム教育WG　　**リーダー：長谷川 長一氏（株式会社ラック）**

サイバーセキュリティのボードゲームやカードゲーム、ゲーミフィケーション要素のあるイベントや教育などに関わる調査や企画、当WG 制作の「セキュリティ専門家人狼」「Malware Containment」の普及プロモーションや講師派遣(主に大学・高専等の教育機関)、ゲーム教育のファシリテーター育成等を行う。

＜2024年度活動＞

- 中小企業大学校東京校「情報セキュリティ研修」講師派遣
- 経営イノベーション専門職大学への講師派遣

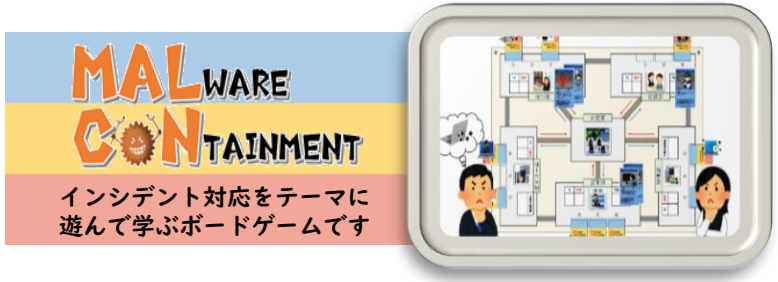
＜活動予定＞

- ゲーム教育に関する調査・研究・プロモーション、講師派遣
- 新作ゲーム教材「CoRepo」の検討・企画（2026年3月公開）
  インシデント発生組織の一員として、「技術的な調査」と「報告・共有」を両立しながら対応を進めます

提供は終了しています

情報科学専門学校と共同開発
スマートフォンアプリ
『セキュリティ専門家 人狼』モバイル：
SECWEREWOLF MOBILE
（Androidアプリ／無料）
Google　Play で提供中！

CoRePo



教育部会

情報セキュリティ教育実証WG　　リーダー：垣内 由梨香氏（日本マイクロソフト株式会社）

情報セキュリティを教えることが出来る高度なスキルをもった人材を育成するために、実践での大学などでの講義を通じて、実践力とハイレベルスキルの習得を目的とする。
また、作成した成果物（講義コンテンツ）のJNSA会員企業への共有と他の学校関連や団体への展開を計画

＜2025年度活動＞
- 岡山理科大学講義実施 4-8 月
- 国立高専「K-SEC サマースクール、スプリングスクール」講師派遣
- SEAJ アカデミー認定校講師向け研修講師派遣
- SEAJ認定校講師向けガイドブック作成
- 中小企業大学校研修講師派遣

＜年間活動予定＞
- 岡山理科大学講義実施
- 中小企業大学校東京校講義実施
- SEAJ認定校講師育成支援、教材・試験改訂
- 講師スキル向上のための勉強会開催および講師に必要なスキルの整理

＜予定成果物＞
- 情報セキュリティ講義の資料
- 中小企業向け情報セキュリティ講義の資料
- クラウドサービスセキュリティ講義の演習
- 講師スキル育成のための手引き、育成資料、スキルチェックシートなど

教育部会

セキュ女WG

リーダー：齋藤 由起子（NTTドコモソリューションズ株式会社）

会社の枠を超えた連携を可能にし、女性セキュリティエキスパートの交流場所を提供する。セキュリティに関する専門スキルを持ちたい女性を応援するための以下の活動を行う。

- 女性のキャリア形成や仕事の進め方など、相談ができる場を提供
- セキュリティの仕事は幅広のため、他の人が従事している業務を知る機会を提供
- 守秘義務を守りつつ、業務で得た疑問を共有、他社の事例を紹介しあう場の提供
- ワーキンググループメンバーが講師の勉強会を開催
- 外部有識者の講演会を主催
- 仕事、育児、介護、自身の自由時間をどのようにマネジメントするかTipsを得るためのタイムマネジメントの情報交換を実施

＜年間活動予定＞

・ワーキンググループメンバーや外部講師による勉強会開催等

2025年4月22日 セキュリティコミュニティの入り方/歩き方/活かし方（講演者：中島明日香様）
2025年5月29日 WG勉強会実施「セキュリティキャリアについて」（WGメンバ2名より説明）
2025年6月27日 WG勉強会実施「資格試験の歩き方」（WGメンバ1名より説明）

・月1回程度のWGメンバー会合

教育部会

教育部会産学連携プロジェクト（2023年度開始）　　リーダー：長谷川長一（株式会社ラック）

JNSA教育部会と教育機関（大学、高専、専門学校等）との産学連携活動（主に学生向けの講座やイベント「セキュリティチャレンジスクール」）の企画・運営、講師派遣による実施を行う。
実施にあたっては「JNSAインターンシップ」「enPiT Security」「K-SEC」など、様々な学生向けイベントや活動、各団体とのより一層の連携を図り、連携講座の企画・実施も行う。

＜2024年度活動＞
- 学生参加型イベント「JNSAセキュリティカフェ」開催
  - 「セキュリティなんもわからん！だけど勉強してみたい学生あつまれ」
  - 「IT業界で働きたい女子集合！～セキュリティ、いかがですか？～」
- 学生体験がセミナー「JNSAセキュリティチャレンジスクール」開催
  - テーマ　ゲームで学ぶサイバーセキュリティ｜サイバーセキュリティ脅威分析の基礎
    InsideIT+ゼロからペネトレーションテスト,TryHackMe-Kenobiに挑戦　など

＜活動予定＞
- 2025年4月～2026年3月　産学連携活動のため、関連各団体との検討・企画会議等を開催し、大学、高専への講師派遣、学生向けイベント「セキュリティカフェ」を実施
- 2025年8月～9月 「セキュリティチャレンジスクール・夏期」の開催、K-SECサマースクールへの講師派遣
- 2025年10月～2026年2月　一関高専授業への講師派遣
- 2026年3月　enPiT Security +K-SEC+JNSA連携講座の開催
- 2026年3月　「セキュリティチャレンジスクール・春期」の開催

会員交流部会

会員交流部会

部会長：扇 健一氏 （株式会社日立ソリューションズ）

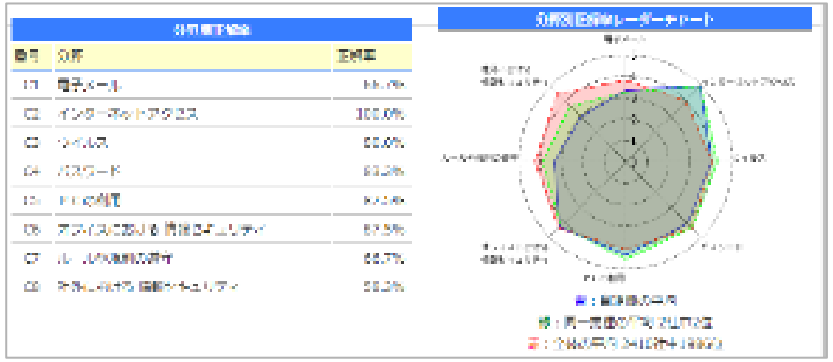
情報セキュリティ業界における健全な発展と貢献のため、会員向けのサービスとユーザ向けのサービスをマーケティング部会と連携しながら拡充させる。特にソリューションガイドサービスについては、ユーザ（特に中小企業向け）、会員ともに利用しやすい環境とするための改修を行う。またセキュリティ理解度チェックについても利用者の増加に伴い、安定的に運用可能な環境の整備強化を検討する。
なお、会員向けの説明会や政府統一基準群の改定予定を受けた各種ガイドライン等の勉強会、また紐づけについては継続的して実施する。

会員交流部会

セキュリティ理解度チェックWG　　**リーダー：西浦真一氏（キヤノンITソリューションズ株式会社）**

理解度チェックの継続的な問題の見直しを行うと共に、プレミアム版（有料サービス）のユーザ数増加に向けた対外活動を実施する。 プレミアム版の利用者の増加に伴い、安定的に運用可能な環境の整備強化を行う。

理解度チェック・プレミアム（有償版）
https://slb.jnsa.org/eslb/



＜利用状況＞2026年3月時点
・個人向けセルフサービス
　登録者数：46,367件
・理解度チェックサービス
　管理者本登録数：7,984（社数） 総ユーザ数： 405,112件
　有償版（プレミアム）：48社
＜活動予定＞
　新規問題の追加、カテゴリの改修などの検討

会員交流部会

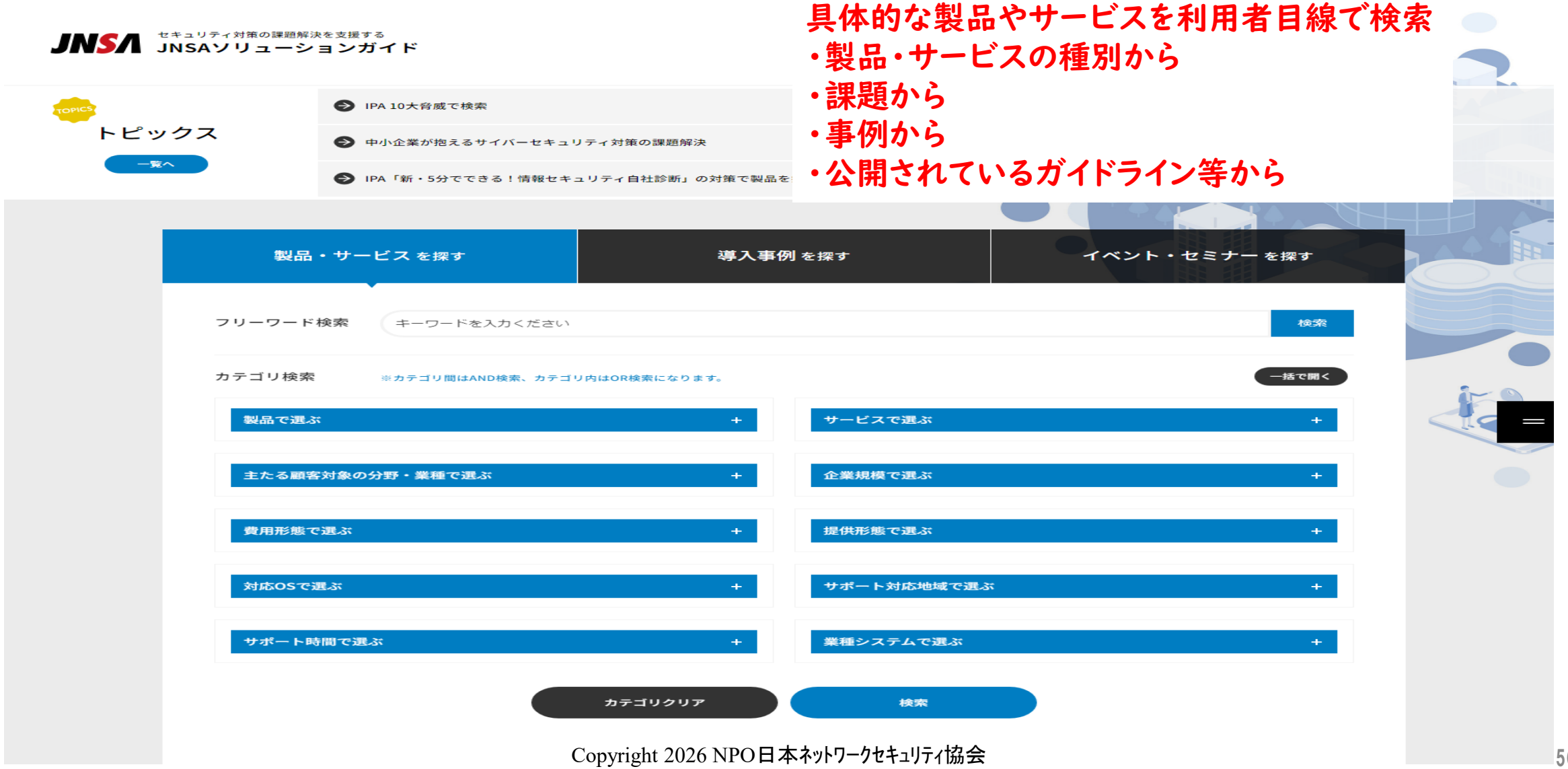
JNSAソリューションガイド活用WG　　リーダー：秋山 貴彦氏（株式会社アズジェント）

JNSA会員の製品・サービス検索サイト「ソリューションカイド」の活用の活性化をはかる。特に中小企業に配慮した検索項目の追加、カテゴリの見直しなどを行い、加えて、サイトの全面改修を行う。

JNSAソリューションガイドサイト
https://www.jnsa.org/JNSASolutionGuide/

＜活動成果と予定＞
・全面リニューアルを行う。2024年１月公開済み。
・目的は、以下の通り。
　・検索方法の改善を行い、ユーザのニーズと会員企業の製品やサービスのマッチングの向上を図る。
　・中小企業のユーザが求める検索方法について検討し、それを実装し、中小企業ユーザが頼れるセキュリティ対策サイトを目指す。
・JNSA 内の他部会・WG が作成した成果物とソリューションガイドとの連携
・IPAなど関係諸団体が作成した各種ガイドラインとソリューションガイドの連携
　（例）中小企業のための情報セキュリティガイドライン
　　SCS対策評価制度評価基準　等
・関係諸団体が有しているWeb 内でのバナー掲載促進

ソリューションガイドサイトを刷新しました



具体的な製品やサービスを利用者目線で検索
- **製品・サービスの種別から**
- **課題から**
- **事例から**
- **公開されているガイドライン等から**

中小企業のサイバーセキュリティ対策の課題解決から検索

課題一覧

1.昨今の企業経営に影響を与える脅威に備えたい
- 1-1 ランサムウェアによる被害に備えたい
- 1-2 標的型攻撃による機密情報の窃取に備えたい
- 1-3 サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃に備えたい
- 1-4テレワーク等のニューノーマルな働き方を狙った攻撃に備えたい
- 1-5 内部不正による情報漏えいに備えたい
- 1-6 脆弱性対策情報の公開に伴う悪用増加に備えたい
- 1-7 修正プログラムの公開前を狙う攻撃（ゼロデイ攻撃）に備えたい
- 1-8 ビジネスメール詐欺による金銭被害に備えたい
- 1-9 予期せぬIT基盤の障害に伴う業務停止に備えたい

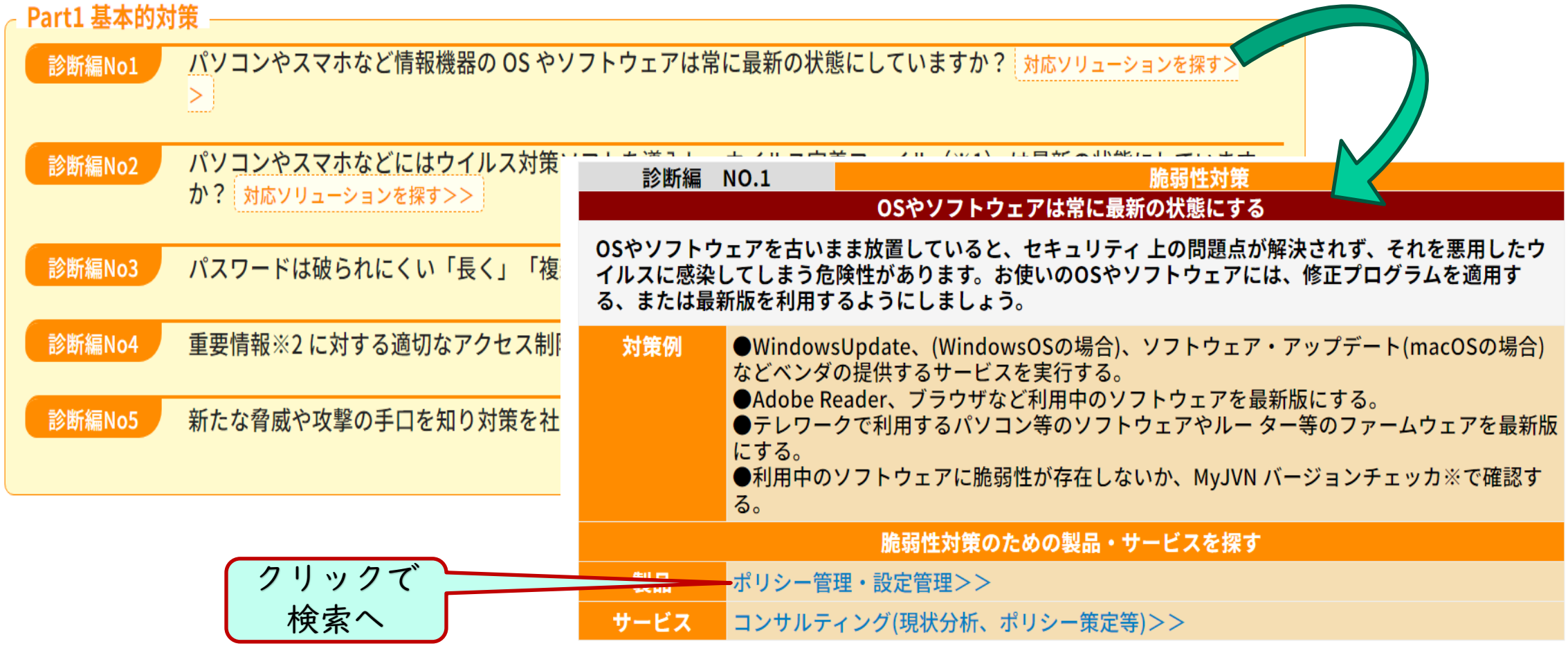
2.企業に役立つITソリューションを安全に導入したい
- 2-1 事業所に無線LAN（Wi-Fi）を導入する
- 2-2 電子メールを利用する
- 2-3 インターネット上のWebサイトにアクセスする
- 2-4 自社でWebサイトを持つ、運用する
- 2-5 クラウドサービスを利用する（SaaS想定）
- 2-6 IoTを活用する（何れは、AIやメタバースなども）
- 2-7 個人情報を保持する、業務に利用する（1/2）
- 2-7 個人情報を保持する、業務に利用する（2/2）
- 2-8 機密情報を保持する、業務に利用する（1/2）
- 2-8 機密情報を保持する、業務に利用する（2/2）
- 2-9 テレワークを導入する(リモートデスクトップ方式)
- 2-10 BYODを認める

3.具体的なセキュリティ課題を解決したい
- 3-1 電子メールのセキュリティ対策をしたい
- 3-2 ネットワーク上でデバイスの安全な認証の仕組みを構築したい
- 3-3 社内のセキュリティ対策をしたい（PC・スマホ・サーバ）
- 3-4自社のネットワークを評価したい（把握したい）
- 3-5 情報セキュリティのルールを整備したい
- 3-6 インシデント発生時に頼れる先（緊急時連絡先など）が無い
- 3-7 取引先にセキュリティ対策を説明したい

クリックで解説編へ

IPA「新・5分でできる！情報セキュリティ自社診断」から探す

IPA「新・5分でできる！情報セキュリティ自社診断」を表示、その基本対策編から
対策に必要な製品やサービスを検索します。



会員交流部会

国産セキュリティ産業振興WG　2025年4月設立　リーダー：栗原 啓氏（株式会社日立ソリューションズ）

経済産業省の「サイバーセキュリティ産業振興戦略」に伴走し、国産セキュリティ産業（ソフトウェア、アプライアンス、SaaS）の振興をめざす。

＜活動目的＞

・サイバーセキュリティ対策の必要性が高まる中で、
① 企業が適切なセキュリティ製品を選択できるようにする、
② 我が国へのサイバー攻撃の特異性にも対応し安全保障を確保する、
③ 拡大するデジタル赤字解消に貢献する、
以上の観点から、我が国セキュリティ産業振興が不可欠と考えられる。

・現状、国内で活用される製品の多くを海外製が占めており、ユーザは、これまでの利用実績や価格を重視。結果として我が国セキュリティ産業は、「買い手がつかないので儲からない」「儲からないので事業開発や投資が十分になされず競争力が低下」という悪循環に陥っている。
こうした現状を打破するため、製品開発の出口をまず確保した上で、シーズの発掘・事業拡大を後押しする包括的な政策対応を提示することを目指す。

＜活動予定＞

国産セキュリティ商材の審査・表彰やSIerとのマッチングの場の創出など、JNSAとして実施できることを検討し、実行する。具体的にはベンダーとSierのマッチングイベントの実施。

＜第1回国産セキュリティビジネス交流会＞（共催：経済産業省）
開催日：2026年6月15日14時～18時30分
参加者：ベンダー側7社（14名）、バイヤー側（Sier、販売代理店）14社（23名）

※今後年3～4回程度の開催を予定

マーケティング部会

マーケティング部会

部 会 長 ：小屋 晋吾 氏 （株式会社フォーラムエイト）
副部会長：持田 啓司 氏 （株式会社ラック）

JNSAの認知度向上やWG成果物の普及促進を目的とした活動を行うとともに、会員企業を獲得するための施策を立案、実行する。全国でのセミナーを開催しセキュリティ啓発を諮るとともに、JNSAの認知向上、会員加盟社数増加に貢献するための活動を行う。また、マーケティングに関連した勉強会を開催し、会員企業の知識向上を図る。サイバーセキュリティの職業紹介ビデオを追加し、業界への就職人口増加に寄与する活動を行う。

＜活動予定＞
・全国セミナー（東京、大阪、名古屋）9月～10月
・勉強会「オンラインメディアが読み解くセキュリティ市場動向と、マーケティングの新潮流」
・職業紹介ビデオの追加制作
＜活動予定＞
・マーケ担当向け勉強会
・職業紹介ビデオの追加制作の検討

＝2025年全国セミナー（オンライン）8月27日13:30～
特別講演：「サイバー攻撃の現状とサイバーセキュリティ政策について」
経済産業省サイバーセキュリティ課 武尾課長
講　演：「生成AIとセキュリティ」
「サイバー攻撃を受けるとお金がかかる～インシデント損害額調査レポートから考えるサイバー攻撃の被害額～」
「中小企業における現実的な情報セキュリティ対策　～目に見える・手が届く運用とは～」
「ローコストで実践！従業員セキュリティ教育 ～情報セキュリティ理解度チェック活用法～」

https://www.jnsa.org/jobintroduction/index.html#yellow-team-video

事業コンプライアンス部会

事業コンプライアンス部会

部会長：倉持 浩明 氏（株式会社ラック）
副部会長：唐沢 勇輔（Japan Digital Design 株式会社）

サイバーセキュリティサービスの提供者が、ネットワーク社会、サービスを享受するお客様、そしてサービス従事者として自らを守るために、適正なセキュリティサービス事業遂行の在り方について検討する。また法令リスクについて実例を踏まえた情報交換や調査等を行う。

＜成果物＞
・サイバーセキュリティ事業者行動規範と事業遂行の基本指針（2019年公開）
・「現代のサイバーセキュリティの法的課題についての国際的な研究」（2021年公開）
・「法令リスク一覧」会員限定（2024年公開）
・法律改正の検討
＜活動予定＞
・勉強会、意見交換会、関係省庁との連絡会を開催（不定期）
＜勉強会＞（会員限定）
・6月3日　テーマ：ランサムウェアとセキュリティサービスに潜む"法的リスク"
「ランサムウェアの身代金支払いに関する法的論点」山岡裕明 八雲法律事務所 弁護士
「SOC/MSSサービスの情報漏洩インシデントから考える法令リスク」
三国 貴正 （株式会社YONA 代表取締役社長）

事業コンプライアンス部会

行動規範

サイバーセキュリティ事業に携わる者は、情報社会、セキュリティ製品やサービスを利用するお客様、そして事業者自身を守るために、以下の行動規範に則って事業を遂行します。

1.情報社会の安全を向上させ、安心の醸成に努めます。
2.法令等の正しい理解に努め、これを遵守します。
3.高度化する脅威に備え技術の向上に努めます。
4.自らの製品およびサービスの安全確保に努めます。
5.倫理観を持ち、正当な目的のために業務を遂行します。

事業遂行の基本指針

1. はじめに

サイバーセキュリティ事業には、扱い方を誤るとそれ自体が脅威となりうるマルウェアや脆弱性診断ツールなどのソフトウエアや専門技術を事業として取り扱うことから、事業固有のリスクがある。そこで、業界全体として共通的に取り組むべき事業遂行におけるリスク管理の基本指針を定める。（以下、略）

2. 目的と適用対象

A) 目的
B) 適用対象

3. リスク管理の考え方

A）サイバーセキュリティ事業の明確化
B）サイバーセキュリティ事業のリスク評価
C）サイバーセキュリティ事業の管理策の策定

事業遂行の基本指針（つづき）（項目のみ）

4. 管理策の実施について

事業者は以下の管理策を実施することが望まれる。

A）管理体制の整備
B）社内教育・指導
D）実施状況の確認
E）連絡窓口の明確化

JNSA Webサイトに自己宣言企業として掲載

□ JNSA会員自己宣言企業（社名昇順）

（一部のみ）

会社名
アドソル日進株式会社
アルプス システム インテグレーション株式会社
AOSデータ株式会社
NRIセキュアテクノロジーズ株式会社

JNSA サイバーセキュリティ業務における倫理行動宣言
Declaration of Ethical Code for Cybersecurity Operations

U40部会

U40部会

部会長：立山 純平（日本郵政株式会社）

若年層を対象メンバーとして、JNSAの若返り、若年層の活動活発化、幅広い人脈形成を目的として勉強会を中心とした活動を行う。

＜活動予定＞
・「岡山理科大学」のリモート講義対応
・ICT-ISAC若手活躍SiGと連携した勉強会の開催
・U40部会内のLT大会

次代を担う人を発見、育成しよう。
参加者を随時募集中

for RookiesWG

リーダー：奥澤 美穂氏（株式会社Speee）

セキュリティ関連業務経験3年未満を対象とし、若手をはじめとした人的ネットワークの形成および知識向上を目的とする。「いまさら聞けない相談事」を主に参加者が講師を担当などアクティブラーニング方式で行う。

勉強会企画検討WG

リーダー：武田 啓介氏（株式会社信興テクノミスト）

U40部会員の知識・スキル向上を目指し、勉強会を企画・開催する。内容によってはJNSA会員からも広く勉強会参加者を募り、部会員同士・JNSA会員・外部講師との人脈形成を行う。

国際連携部会

2023年3月設立

国際連携部会（新設）

部 会 長 ：伊藤 整一 氏 （株式会社大和研究所）

会員企業の海外連携のニーズと施策を検討するとともに、関係省庁の情報収集と協調、各国サイバーセキュリティ関連団体の情報収集と連携などを行い、我が国の国際連携の一翼を担い、ひいては会員企業の海外進出やセキュリティ人材の確保に資する活動を行う。

＜主な活動＞

・海外情報（市場・環境）の調査・研究活動
　サイバーセキュリティ業界における海外の政府・業界・市場の情報を会員に提供する。
・海外業界（協会・団体）との連携関係維持活動
　サイバーセキュリティ業界に各国の協会団体との連携窓口となる事を目指す。
　AJCCA(日ASEANサイバーセキュリティ・コミュニティ・アライアンス)に参加。
　　副会長：江崎先生
・JNSA の海外向けプロデュース（宣伝と販売・知財権管理）活動
　JNSA が独自開発したコンテンツの海外向けプロデュースとプロモーション活動を行う。
・関係省庁等との連携
　目的を同じくする関係省庁等との連携を図る。

第２回AJCCAカンファレンスin東京2025を開催
日時：2025年10月10日（金）
場所：東京大学弥生講堂一条ホール
https://www.jnsa.org/ajcca/

国際連携部会

海外市場開拓WG　　**リーダー：松本 照吾氏（アマゾン ウェブ サービス ジャパン株式会社）**

Made-in-Japanのセキュリティソリューションの海外展開・拡販を業界団体として促進する。（2024年度で活動休止）

＜活動実績＞
・RSA Conference USA 2021 (2021年5月)にJAPANパビリオン出展
・海外市場進出ガイドのアップデート
・セキュリティ事業特化の輸出関連教育
＜予定成果物＞
・海外市場進出ガイド
・セキュリティ事業特化の輸出関連ガイド
・各社の製品情報の英語版の拡充

RSA2021Vertual

RSA2020
総務省の支援を受け
JNSA会員企業16社

Cebit Asean Thailand

西日本支部

西日本支部

支部長：米澤 美奈 氏（株式会社ソリトンシステムズ）

西日本に拠点を置くメンバー企業が中心となり、提携団体との協働の下、西日本のネットワーク社会におけるセキュリティレベルの維持・向上に資すると共に、産官共同して、IT利活用の実現・推進のため、西日本に集積する中小企業がリスクの変化に応じた機動的な対応を行うことができる機会づくりを支援する。

「NSF 2024 in Kansai」の定期開催（2025年3月18日大阪開催）

今すぐ実践できる工場セキュリティ対策のポイント検討WG

リーダー：岡本 登氏（富士通株式会社）

現場実態を考慮したセキュリティ対策の考え方や新たなサイバー対応BCP策定に必要な観点などを整理し、中堅・中小製造現場のセキュリティ向上を支援する。

＜活動成果＞
「今すぐ実践できる工場セキュリティハンドブック・リスクアセスメント編」を公開。（2022年05月）
「今すぐ実践できる工場セキュリティハンドブック・リスク対策編」及び「工場セキュリティハンドブック・リスク対策集」を公開　（2024年3月）
「今すぐ実践できる工場セキュリティハンドブック・BCP策定編」を公開　（2025年5月13日）
＜今後の予定＞
・セキュリティ対策ハンドブックの普及啓発

工場セキュリティハンドブック三部作完成

委員会等

産学情報セキュリティ人材育成検討会（JNSAインターンシップ）

座長：江崎 浩 教授（東京大学）事務局：持田 啓司 氏（株式会社ラック）

将来情報セキュリティ技術を活かして活躍したいと考えている学生に対して、情報セキュリティ業界の魅力を感じてもらえる場としてJNSAインターンシップを実施。

- JNSAインターンシップの実施（通年）
- 企業と学生との「交流会」の開催 （本年はオフライン会合に戻す。地方開催も計画）

2026年度オフライン交流会を開催

日時：2026年4月25日（土）14:00-19:00
場所：東京大学本郷キャンパス
プログラム概要：
- パネルディスカッション
  「セキュリティの仕事に就くとは？」
- インターン受け入れ企業紹介（９社）60分
- 企業担当者・学生グループディスカッション 60分
- 懇親会

参加者：
学生　23名（大学。大学院、高専、専門学校）
企業　31名　大学関係者　2名

サイバーセキュリティ産学連携推進協議会

代表：大塚 玲 教授（情報セキュリティ大学院大学）

サイバーセキュリティ分野の産学連携活動を強化し、わが国のこの分野における研究開発/実務対応を強化することにより、わが国IT環境のセキュア化を図り、結果としてIT利用による社会/企業活動の活性化に繋げる。
メンバーは複数の大学関係者とJNSA会員企業で構成

＜活動予定＞
- 学から産への共同研究提案に係る募集要項案の作成
- 既存の共同研究マッチングシステムの調査
- メルマガ発行スキーム（発行主体や時期、内容等）の検討

JNSA-IAC3 第2回サイバーセキュリティセミナー
テーマ：　JC3の産学官連携推進に向けて ～産業界の皆様に向けて～
日　時：　2026年2月12日（木）14:00－17:00
場　所：　情報セキュリティ大学院大学 3階 303・304教室
対　象：　学術系研究者、一般企業の方
主　催：　NPO日本ネットワークセキュリティ協会、
　　サイバーセキュリティ産学連携推進協議会
【講演1】「JC3の実データと共同研究によるサイバー犯罪対策の高度化」
　　渡邊 泰司 氏（一般財団法人日本サイバー犯罪対策センター）
【講演2】「警察機関の視点による産学官連携したサイバー犯罪対策研究」
　　竹重 耕介 氏（千葉県警察本部 生活安全部サイバー犯罪対策課）
　　堺 啓介 氏（神奈川県警察 サイバーセキュリティ対策本部）
【講演3】「民間企業の視点から見た産学官連携研究の価値」
　　松ヶ谷 新吾 氏（トレンドマイクロ株式会社 サイバーセキュリティ・イノベーション研究所）
　　嶋村 誠 氏（トレンドマイクロ株式会社 サイバーセキュリティ・イノベーション研究所）

SECCON実行委員会

実行委員長：三村 聡志 氏（GMOサイバーセキュリティ byイエラエ株式会社）
副実行委員長：木藤 圭亮氏（トヨタ自動車株式会社）、花田 智洋氏（国立研究開発法人 情報通信研究機構）
顧問：寺島 崇幸 a.k.a. tessy 氏（フューチャーセキュアウェイブ株式会社/ AVTOKYO/sutegoma2）

年間を通して、CTF国際大会を中心にセキュリティに関係するイベントを開催し、情報セキュリティ人材の発掘・育成と国内の情報セキュリティレベルの底上げを図る

- **SECCON CTF　2025年秋オンライン予選、2026年3月SECCON CTF決勝戦をオフライン開催**
- **CTF未経験者向け「SECCON Beginners」5回程度開催（7月～未定）地方開催予定**
- **女性向けワークショップ「CTF for GIRLS」開催（8月～11月）SNSコミュニティ開設**
- **ワークショップ・コンテスト　Contest of contestなど（7月～12月）**
- **「SECCON14電脳会議」（ 2026年3月）カンファレンス、ワークショップ、CTF決勝戦併催**

  https://www.seccon.jp/14/

スポンサー
を募集中！

昨年度SECCON13実績（抜粋）
- SECCON CTF予選（オンライン）、参加人数2,649（海外参加57.4%）
- SECCON 決勝戦（オフライン）参加チーム 海外8チームm日本1チーム、国内大会9チーム
- 電脳会議開催２日間　来場者数619名
- ワークショップ 開催5回（Moving Target Defense、IoT セキュリティ、XDP で作って学ぶファイアウォールとロードバランサーなど）
- SECCON Beginners 開催6回
- CTF for GIRLS 開催３回、SNSコミュニティ開設

傘下団体など

情報セキュリティ教育事業者連絡会（ISEPA）

代表：持田 啓司氏（株式会社ラック）

サイバーセキュリティに関する教育を提供している事業者事業者間の連携や情報交換による業界活性化を図るための活動を行うとともに、政府機関への政策提言や政策実現のための適切な事業者活動、DX 推進のための人材の育成や流動化促進などを実施する。

＜活動予定＞
・人材育成関連セミナー開催
・事業者間情報共有会議
・セキュリティ関連スタッフのヒヤリング調査
・教育コース・資格のSecBoK マッピング
・スキル認定ガイドライン見直し
・JTAG アドバイザリコミッティの開催と運営
＜予定成果物＞
・セキュリティ関連スタッフ調査報告書
・教育コース・資格のSecBoK対応マップ
・スキル認定ガイドライン(バージョンアップ)

＜主な報告書＞
- 「セキュリティ人材の確保と育成」（2025.5.28）
- 学生のキャリア意識2023年調査速報 第2弾（2023.6.4）
- ISEPA 会員企業提供トレーニングコース一覧（2024.5.9）
- 学生のキャリア意識2023年調査速報（2024.3.29）
- 学生のキャリア意識調査2022年レポート」(2023.2.16)
- JTAG認定ワーキンググループ金融版検討　概要版（トライアル結果）(2022.7.26)
- セキュリティ業務職種のキャリア展望について(2021.5.20)

日本セキュリティオペレーション事業者協議会

代　表：武智 洋 氏（日本電気株式会社）
副代表：阿部 慎司 氏 (GMOサイバーセキュリティ byイエラエ株式会社）
副代表：武井 滋紀 氏 (SCSKセキュリティ株式会社)
副代表：早川 敦史 氏 (GMOサイバーセキュリティ byイエラエ株式会社)

セキュリティオペレーション技術向上、オペレータ人材育成、および関係する組織・団体間の連携を推進することによって、セキュリティオペレーションサービスの普及とサービスレベルの向上を促し、安全で安心して利用できる IT 環境実現に寄与することを目的として活動する。

WG1（セキュリティオペレーションガイドラインWG）リーダ：上野 宣 氏（株式会社トライコーダ）
　脆弱性診断事業者・脆弱性診断士から開発会社向けまでセキュリティ技術の向上に役立つガイドライン作成を主目的とする。
WG2（セキュリティオペレーション技術WG）リーダ：川口 洋 氏（株式会社川口設計）
最新の技術動向を調査し、最適なセキュリティオペレーション技術を探究、技術者の交流を図る。
WG4（セキュリティオペレーション認知向上･普及啓発WG）リーダ：阿部 慎司 氏（GMOサイバーセキュリティ byイエラエ株式会社）
セキュリティオペレーションの必要性についての認知度向上を目的とし、普及啓発活動を行う。
WG6（セキュリティオペレーション連携WG）リーダ：武井 滋紀 氏 (SCSKセキュリティ株式会社)
セキュリティオペレーション事業者間の共通の課題の認識および、課題の対応や対処について検討を行い、必要に応じて成果物を外部への公開を行う。
「セキュリティ対応組織の教科書3.1版」　ITUT X.1060に採用
新技術とオペレーションPJ
新しい技術要素がもたらすセキュリティオペレーションへの影響を検証し、より適切な運用を行えるような指針を策定

日本セキュリティオペレーション事業者協議会

＜主な活動成果　ガイドライン等＞

- 「脆弱性診断士　倫理綱領改訂（事例集を追加）」（2026.1）
- 「セキュリティ対応組織の教科書 第3.2.1版」(2025.10.17)
- 「脆弱性診断士のキャリアデザインガイド」(2025.2.26)
- 「脆弱性トリアージガイドライン作成の手引き」第2章（2024.11）
- 「ASM導入検討を進めるためのガイダンス（基礎編）」（2024.11）
- 「セキュリティ対応組織の教科書 第3.2版」（2024.10）
- 「脆弱性トリアージガイドライン作成の手引き 」 (2024.5)
- 「Webアプリケーション脆弱性診断ガイドライン 第1.2.4版 」 (2023.11)
- 「細かすぎるけど伝わってほしい脆弱性診断手法ドキュメント」（2023.4.12）
- 「セキュリティ対応組織の教科書 第3.0版」（2023.2.13）
- 「アジャイル開発におけるセキュリティ｜パターン・ランゲージ」OWASP共同開発（2022.7）
- 「 Webシステム／Webアプリケーションセキュリティ要件書 Ver.4.0 」 (2022.6)
- 「 Webアプリケーション脆弱性診断ガイドライン 第1.2版」(2022.3)
- 「GraphQL脆弱性診断ガイドラインについて」(2021.12)
- 「マネージドセキュリティサービス選定ガイドライン Ver.2.0」(2020.7)
- 「ペネトレーションテストについて」(2021.12)
- 「セキュリティ対応組織強化に向けたサイバーセキュリティ情報共有の「5W1H」 v2.0 」(2019.4)

日本トラストテクノロジー協議会

運営委員長：小川 博久氏（株式会社三菱総合研究所）

電子署名や電子認証など含むトラストテクノロジーに関連する事業者及び利用者が主体となり、産学官及び国内外の関連団体と連携して信頼性を担保するための技術等の検討を行い、より信頼できる電子社会の促進に寄与する。

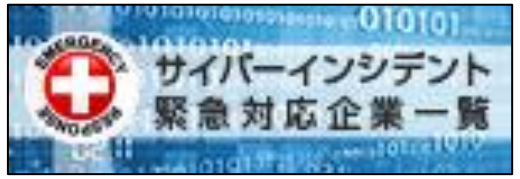
＜事業内容＞
・トラストテクノロジー関連ガイドラインの検討及び策定
・国内外の関連団体と連携し普及、及び利用促進
・トラストテクノロジーの普及促進のために意見交換や情報共有
・トラストテクノロジーに関する調査検討、研究開発

＜成果物＞
・「デジタル署名検証ガイドライン」改訂版の公開（2023/12/22）
・「トラストのためのデジタル署名検証解説」の公開（2023/12/22）

＜活動予定＞
Cloud Signature Consortium（CSC）に入会しリモート署名の国際的な技術仕様に日本市場にも適用しやすい仕様を盛り込むべく活動を行う。
成果として、リモート署名ガイド、eシールガイド、リモート署名API標準化を目指す。

その他活動

- JNSA表彰
  - 情報セキュリティに係る活動が顕著な、個人・団体・WG・学生等を表彰
- 主催セミナー・勉強会・シンポジウム等の開催
  - ＪＮＳＡ活動報告会（7月）
  - 主催フォーラムNetwork Security Forum（NSF)2025 2025年1月24日オフライン開催
  - セキュリティ十大ニュースの発表（12月）
  - 25周年記念イベント開催（2026年2月5日）
- サイバーインシデント緊急対応企業一覧の更新
- YouTube JNSAチャンネル
  - お仕事紹介、セミナーなど続々アップ
    - https://www.youtube.com/@JNSAseminar



JNSA　YouTubeチャンネル

情報セキュリティは単独では完成しません

JNSAの活動に参加しませんか

人脈を広げる　　知識を広げる　　ビジネスを広げる

活動に参加したい、新しい活動を創出したいと思ったら

事務局（sec@jnsa.org）に連絡してください

JNSAをよろしくお願いいたします。

事務局長　下村正洋